

2020年5月1日
日本銀行富山事務所長
(富山県金融広報委員会副会長)
小川万里絵

富山県金融広報委員会の2020年度の活動方針等について

このたび、富山県金融広報委員会（以下「県金広委」といいます。）の委員等により、2020年度の活動方針が決議されましたので、その内容等についてご紹介します。

—— 富山県金融広報委員会とは、中立・公正な立場から、県民の皆様に正確でわかりやすい「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行う公的な組織です。富山県知事が会長を務め、県、富山財務事務所、日本銀行富山事務所が共同して運営にあたっており、日本銀行富山事務所は、その事務局を務めています。

1. 基本活動方針

2020年度の基本活動方針は、「**広めようお金の知恵～生きる力、自立する力を高めるために**」を基本として、引き続き、①学校における金融・金銭教育、②一般向け金融知識の普及活動に取り組んでいきます。

現在の金融広報を巡る環境をみますと、学校においては、金融教育の充実を図った新学習指導要領が今年度から順次実施されます。また、2022年4月からの成年年齢の引き下げに向け、高校生の金融や契約の知識の学習をサポートする必要があります。

社会人については、資産形成のための優遇税制の拡充や、デジタル化の進展等に関する情報提供が求められています。最近、「人生100年時代」という言葉がよくかれますが、長い人生のそれぞれの場面で、資産づくり、保険、税金、年金、相続等に関する、さまざまな情報を得て、生活設計に取り組んでいく必要があるということに対する理解が進んできていると思われます。

こうした環境のもと、学校向け、社会人向けそれぞれについて、これまでの活動で蓄積された経験やノウハウを活用しつつ、効果的な金融広報活動を進めていきたいと考えています。

また、県金広委の活動については、富山県、富山財務事務所および日本銀行富山事務所がこれまで以上に緊密な連携を図るとともに、委員団体*、各地方公共団体との連携、協力のもとで取り組んでまいります。

*委員団体は、富山県内の市町村会、教育委員会、金融機関、メディア、消費者団体等。

2. 具体的な活動内容

(1) 学校における金融・金銭教育

○ 金融・金銭教育の実践

- ・金融教育研究校（富山県立滑川高等学校）および金銭教育研究校（入善町立上青小学校）における金融・金銭教育の実施をサポートします。また、これら研究校での教育の実践を核とし、他の学校への金融・金銭教育の進展も図っていきます。

○ 教育関係者への情宣、小・中・高等学校、保護者に向けた働きかけ

- ・新学習指導要領の順次実施を踏まえ、金融・金銭教育の重要性や、これまでの実践例について、教育委員会や校長会、各学科研究会等を通じて教育関係者への情宣を行います。
- ・小学生およびその保護者向け「マネー講座」、中学生向け「金融教育セミナー」や高校生向け「金融経済講演会」の実施について、金融広報アドバイザーの派遣や内容の相談、資料提供等のサポートを継続します。

○ 成年年齢引き下げへの対応(巣立ち教育)

- ・成年年齢引き下げへの対応として、高校生向け出前授業「巣立ち教育」（成年として最低限身につけるべき金融や契約の知識に関する教育）の実施に向けて、高等学校等への働きかけを行います。
- ・教育関係者を対象とした、「富山県金銭教育協議会」（隔年実施）を開催します。

○ 県銀行協会・県内金融機関・各種団体のサポート

- ・県銀行協会、県内金融機関、各種団体が主催する金融・金銭教育活動に対して資料、ノウハウを提供する等、積極的な活動支援を継続します。

(2) 一般向け金融知識普及活動

○ 社会人各層の関心やニーズに対応した「出前講座」の実施や情報提供による金融リテラシーの向上

- ・人生 100 年時代を念頭に置いた資産形成等、社会人各層の関心やニーズに対応した「出前講座*」(金融広報アドバイザーの無料派遣)を継続し、金融リテラシー向上を図ります。

* 出前講座のお申し込みの流れ等については、知るぽると富山 web サイトの[「講師無料派遣」](#)のページをご覧ください。

- ・引き続き、県内市町村の成人式において、新成人向けパンフレット「新成人のための人生とお金の知恵」を配布します。

○ 金融経済講演会の開催、消費者イベントへの参加や情報提供等

- ・今年度も、資産形成、生活設計、金融トラブル予防等県民の関心が高く、タイムリーなテーマについての講演会（無料）を開催する予定です（10月・富山市、9月および11月・射水市等）。
- ・市町村等主催の消費者イベントでのブース出展や資料提供等により、県金広委に関する広報活動を行います。
- ・FMラジオ番組への出演継続や新聞への特集記事掲載等により、広く県民各層への金融経済情報の提供を行います。

○ 大学生を対象とした金融教育

- ・関係団体等と連携した寄付講座の実施や、金融経済に関する講義等、県内の大学における金融教育実施と、それに向けた情宣を行います。

3.（参考）富山県における2019年度金融リテラシー調査結果

富山県における金融知識普及の実態を知るうえで参考となるのが、金融広報中央委員会が実施している「金融リテラシー調査*」の都道府県別の結果です。以下では、2019年3月に実施された調査から、富山県の結果をご紹介します。

- * 「金融リテラシー調査」は、18歳以上の個人の金融リテラシー（お金の知識・判断力）の現状を把握する目的で行われており、調査の全容は、金融広報中央委員会のwebサイト（https://www.shiruporuto.jp/public/data/survey/literacy_chosa/2019/）からご覧になれます。

（1）金融知識・判断力に関する正誤問題の正答率

富山県の正誤問題の正答率は、全25問に対し57.2%と、全国平均56.6%を上回り、都道府県別では15位でした。前回調査（2016年3月）では、54.5%と、全国平均（55.6%）を下回り、35位でしたので、改善しています。

なお、「金融知識に自信を持っている」と答えた方の割合は19位と正答率の順位より低く、自己評価としては若干謙虚といえます。

正答率を世代別にみると、60代では、全国平均を4%弱上回っていますが、20代以下では、全国平均を2.4%、70代では同2.8%、それぞれ下回っています（図表1）。

(図表 1) 富山県と全国の世代別正答率

— 下線は富山県が全国を上回ったもの、%

正答率		合計	世代別					
			18-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	50-59 歳	60-69 歳	70-79 歳
富山県	合計	<u>57.2</u>	40.3	<u>51.5</u>	53.2	<u>61.2</u>	<u>68.3</u>	62.0
	男性	<u>59.8</u>	44.0	53.8	58.2	<u>69.0</u>	<u>69.1</u>	60.0
	女性	<u>54.7</u>	36.3	<u>49.1</u>	48.0	53.9	<u>67.5</u>	<u>63.6</u>
全国	合計	56.6	42.7	50.9	55.0	60.4	64.4	64.8
	男性	59.5	45.2	54.3	58.7	62.4	66.9	69.8
	女性	53.7	40.2	47.4	51.3	58.4	62.1	60.4

金融リテラシーの分野別で見ますと、以下の通り、家計管理、金融・経済の基礎、資産形成では好成績ですが、生活設計や金融取引の基本については、全国平均を下回っています。前回調査との比較では、家計管理、保険、資産形成等の分野で、正答率がアップしました(図表 2)。

(図表 2) 富山県と全国の金融リテラシー分野別正答率

金融リテラシー マップの分野	正誤 問題	正答率(%)				
		全国	富山県	全国順位	(富山県の前回 正答率)	
家計管理	2 問	52.3	56.9	1 位	(44.8)	
生活設計	2 問	50.8	49.0	38 位	(49.8)	
金融 知識	金融取引の基本	3 問	74.0	72.9	34 位	(72.3)
	金融・経済の基礎	6 問	49.8	51.2	13 位	(49.8)
	保険	3 問	54.4	54.5	27 位	(50.2)
	ローン等	3 問	54.4	53.7	26 位	(52.4)
	資産形成	3 問	54.8	56.9	6 位	(53.0)
外部の知見活用	3 問	65.6	65.7	22 位	(63.7)	
合計	25 問	56.6	57.2	15 位	(54.5)	

(2) お金や金融に関する行動・考え方の特徴

次に、お金や金融に関する行動や考え方についてみてみましょう(図表 3)。

- ・ **家計管理**については、1 か月の支出を把握している方は全国平均比多いものの、緊急時への備えや、期日に遅れず支払いをする方の割合は若干低くなっています。これは、前回調査でも同様の傾向でした。

- ・ **生活設計**に関し、長期計画や老後の生活費についての資金計画を立てている人の割合は、全国平均よりやや低い水準となっています。
- ・ **金融知識・金融商品の利用選択**については、「お金を借りすぎていると感じている人」の割合、「商品性を理解せずに投資信託を購入した人の割合」が全国平均比高めになっていますが、前回調査では必ずしも同様の結果ではなかったため、そうした傾向があるとはまだいいきれません。
- ・ **外部知見の活用、金融教育**については、「金融経済情報を月に 1 回もみない」方や、「学校で金融教育を行うべき」と思っていない方の割合が高くなっています。私ども金融広報活動で、力を入れていかなければならない要素と考えられます。
- ・ **行動バイアス**では、「損失回避傾向」が強く、「横並び行動バイアス」が強いというはっきりした結果が出ました。とくに、横並び行動バイアスについては、北陸地域では全国平均を上回って横並び志向がやや高い結果（全国 16.7%、北陸 18.1%）となったのに対し、富山県は 12.9%と、全国最下位です。富山県の方は、他人の考えにとらわれず自分がよいと思うものを購入する傾向があるといえます。

（図表 3）富山県と全国の行動・考え方に関する特徴

		—— %、位			
	項 目	全国	富山県	全国順位	前回順位
家計管理	緊急時に備えた資金を確保している人の割合	54.4	46.4	44	(38)
	1か月の支出を把握している人の割合	72.6	74.6	10	(15)
	期日に遅れずに支払いをする人の割合	84.4	77.0	46	(35)
生活設計	お金について長期計画を立て、達成するよう努力している人の割合	48.0	46.9	31	(43)
	老後の生活費について資金計画をたてている人の割合	34.9	32.8	35	(26)
金融知識・ 金融商品の 利用選択	生命保険加入時に他の商品と比較した人の割合	57.5	55.0	26	(33)
	借入れ時に他の商品と比較した人の割合	54.0	49.1	40	(3)
	資金運用を行う際に他の商品と比較した人の割合	67.0	64.0	27	(7)
	消費者ローンを利用している人の割合	4.8	5.7	12	(47)
	お金を借り過ぎていると感じている人の割合	12.8	17.7	4	(27)
	株式を購入したことがある人の割合	32.2	30.6	26	(19)
	商品性を理解せずに投資信託を購入した人の割合	31.3	38.1	8	(43)
	商品性を理解せずに外貨預金等を購入した人の割合	26.0	25.9	25	(9)

	項 目	全国	富山県	全国 順位	前回 順位
外部知見の 活用	金融トラブル発生時の相談窓口を認識している人の割合	72.2	68.9	38	(36)
	金融経済情報を月に1回もみない人の割合	38.6	40.7	12	(38)
金融教育	「学校で金融教育を行うべき」と思っている人の割合	67.2	59.8	46	(29)
	学校等で金融教育を受けた人の割合	7.2	6.7	25	(43)
行動バイア ス	損失回避傾向が強い人の割合	77.3	81.3	4	(33)
	近視眼的行動バイアスが強い人の割合	47.1	49.3	20	(45)
	横並び行動バイアスが強い人の割合	16.7	12.9	47	(42)

(3) 金融トラブルの経験者の割合

金融トラブル経験者の方の割合は、6.2%と、全国都道府県で 33 位（全国平均は 6.7%）でした。前回調査では 9.9%・全国で 3 位（全国平均は 5.9%）でしたので、着実に改善したものといえます。この 3 年間の特殊詐欺被害対策の進展等が寄与しているとも考えられます。

以 上